

令和 7 年 3 月 1 2 日

目黒区教育委員会教育長 宛て

目黒区立向原小学校
校長 畔柳 信之

令和 6 年度 目黒区立向原小学校 学校評価報告書

1 学校評価委員会の実施内容

(1) 第 1 回実施日時 令和 6 年 6 月 2 2 日 (土) 午前 1 1 時 0 分～午後 1 1 時 5 0 分

- ・学校公開の参観
- ・学校経営方針、学校行事等の説明
- ・学校評議委員からの意見

(2) 第 2 回実施日時 令和 6 年 1 0 月 1 9 日 (土) 午前 1 0 時 2 0 分～午後 1 1 時 0 分

- ・道徳授業地区公開講座の参観
- ・前期の教育活動の説明、児童の状況の説明
- ・学校評議委員からの意見

(3) 第 3 回実施日時 令和 7 年 2 月 1 3 日 (木) 午後 4 時 0 分～午後 6 時 0 分

- ・学校公開の報告
- ・後期の教育活動の説明、児童の状況の説明
- ・学校評議委員からの意見

2 参加者

校長 (畔柳 信之) 副校長 (深尾 絵美子)

学校評議員 (松本 猛、岩富 孝允、岩切 美智子、中尾 香、前川 育子)

3 評価の結果等

※四者…児童・生徒、保護者、地域の方、教職員のこと。

評価項目	◎ (成果)、● (課題)、 ◎ (成果と課題の両者を含む)	次年度の教育活動の改善点	学校評価委員会での意見 (学校運営協議会での意見)
I 学校全体について ・学校の雰囲気、学習環境、教職員の態度などについて、家庭・地域との連携、地域人材の活用などについて	◎四者評価における、「学校の雰囲気」についての保護者の肯定的な回答は、概ね高いまま維持している。 ◎「教職員の対応」についての肯定的な回答の保護者が 6 ポイント近く、地域が約 9 ポイント上回った。日頃の教員の丁寧な対応が、保護者や地域に伝わっていると考え。	・低学年の発達段階に応じたきめ細かな指導を工夫し、低学年が学校生活の楽しさを味わえるようにする。 ・全学年を通して、約束やきまりを守ることが集団生活の楽しさにつながることに、組織的に指導を重ねる。	・特に低学年は「学校は楽しいか。」の質問には、休み時間等を想定するのではないかと。学校改築のために校庭がなくなり、児童は思うに遊べないという印象があるのではないかと。制限がなければもっと楽しいと感じるかもしれない。 ・授業の楽しさを感じられるとよい。

	●学校評価における「学校は楽しい」と回答する下学年の回答が、10.5 ポイント下がった。学校生活の楽しさを感じていない児童が一定数いることが課題である。		
Ⅱ 教育目標について ・教育目標、時程、教育内容全体について	◎四者評価における地域の肯定的な回答が3 ポイント上がり、学校の方針等が理解されてきたと考える。 ●一部の教職員が、子どもや地域の実態に合っていないと感じていることについては、理解を図る。	・教職員が一丸となって学校運営に臨むため、教職員同士の共通理解を図る。	・教育目標が地域の実態に合っていないと考えるとしたら、その原因はどこにあるのだろうか。地域にできることがあれば考えていきたい。
Ⅲ 心の教育について ・道徳科の授業の充実や児童・生徒の道徳的実践力の向上に向けた取組について	◎四者評価における保護者の評価が前年度より 11.5 ポイント上がった。道徳の授業や日常的な指導が、学校公開や児童の家庭での話から保護者に伝わっていると考ええる。	・高学年は、複雑な心情を抱えている児童がいる前提で、きめ細かな指導を継続していく。	・道徳授業を学校公開で設定していることは保護者の目に触れやすくよい。 ・児童の話等から、異学年交流活動を通して心が成長していると、保護者が感じ取っていることもあるのではないかな。
Ⅳ 学習指導等について ・学力の定着・向上に向けた授業の改善・充実、少人数指導、〇〇タイム、主体的に学習に取り組む態度等の取組について ・職場体験等体験活動、自然宿泊体験教室、キャリア教育等の充実	◎四者評価における「学習指導」、「情報端末活用」について、保護者の肯定的なポイントが共に上がった。教員の指導のスキルが向上したと考える。区の学習状況調査の結果は、第4学年を除	・研究開発校として、引き続き、校内研究の充実や日々の授業づくりの工夫等を重ねていく。	・自己調整力はとても重要である。これに取り組む本校の特色ある教育「チャレンジタイム」のさらなる充実を期待している。

について	き、全国平均を上回っている。 ●チャレンジタイムの充実や授業研究のさらなる研鑽が必要だと考える。		
V 体育・健康教育について ・体力向上、健康の促進に向けた取組について	○四者評価における保護者の肯定的な回答が 8.1 ポイント上がった。学校改築に伴うスペースの減少に対応した取組が理解されていると考える。 ●四者評価において、児童の肯定的な回答が 9 ポイント近く下がっている。学校で十分な運動ができていないと感じる児童が一定数いる。体力テストの結果は、長座体前屈のみ全国平均より 10 ポイント程下回った。柔軟性を伸ばす取組が必要だと考える。	・区健康トレーナーやアスリート派遣事業の積極的な活用により、専門的な指導を充実させるとともに、体育の授業の工夫を継続する。特に、走る・投げる等の体の動かし方のポイントを指導することや、柔軟性を伸ばす取組を重点的に取り入れる。	・校庭での活動がほとんどないため、日の光を浴びていないことやカーテンを開けることが少ないという環境が気になる。 ・体を大きく動かす運動だけでなく、ストレッチの大切さを児童に教えてほしい。怪我をしにくい体になる。 ・体幹を保持することは、姿勢の維持にもつながることであり、大事にしたい。
VI 特別活動について ・学校行事の充実、異学年交流活動、クラブ・部活動の充実などについて	◎四者評価において、教職員の肯定的な回答が約 12 ポイント上がった。学校改築に伴う制限の中で、教職員は工夫して学校行事等に臨んでいると捉えている、と考えられる。 ●四者評価において、保護者の否定的な回答が 9 ポイントであ	・学校行事や特別活動の意義やねらいについて、より学年の発達段階に応じた指導を行い、低学年から特別活動の楽しさを味わえるようにする。また、特別活動の様子の発信を充実する。	・行事と言えば保護者はスポーツフェスティバルや展覧会をイメージする。学校改築のために開催方法に変更があったことが影響してポイントが下がったのではないかな。 学校改築をマイナスのイメージにしない広報や活動の企画を、PTA からもできたら

	る。学校行事については学校改築に伴う制限があり、満足度が上がらなかった可能性がある。		よい。
Ⅶ 学校生活全般について <生活指導> ・生活規律の徹底、いじめや不登校の現状と対応、教員の関わり方、特別支援教育への取組などについて	◎四者評価において、保護者の肯定的な回答が 17 ポイント上がった。生活規律の徹底については、学年間で連携し、校内研究での取組など、組織的な対応により、効果的な指導が行えたと考える。 また、自分は落ち着いて生活できていないと回答する児童が 5 ポイント減っている。児童も学校全体が落ち着いた雰囲気になったと感じていると捉えられる。	・今年度の落ち着いた雰囲気を維持するとともに、さらに、児童が主体的に適切な学校生活を送ることが課題である。	・学校改築のために校舎が変わったことで、児童に緊張感があるとも考えるかもしれないが、学校公開時などでは、明らかに昨年度より児童が落ち着いたと感じる。
<防災教育・安全指導> ・事故や災害に関する安全教育や情報モラル教育の充実、安全管理などについて	◎四者評価において、防災教育への保護者の肯定的な回答が 0.8 ポイント上がった。日常の取り組みを周知したことが保護者の理解につながったと考える。 ●安全教育について、低学年の肯定的な回答が低い。「安全教育に真剣に参加していない」と回答した児童に対して、詳細な児童の意識を調査	・引き続き、防災教育・安全指導について、学校 HP や学校だより等で取り組みを発信するとともに、特に低学年に理解しやすい指導の工夫を行う。	・今後仮設校舎でも、引き渡し避難訓練を実施してほしい。 ・PTA で通学路合同点検を実施し、その結果を受けて安全マップを作成予定である。さらに、児童の危機意識の低さや、道路の危険な状況を踏まえ、児童の安全教室が必要である。 地域(住区)と PTA が連携した交通安全教室や自転車安全教室を復活させたい。

	し、避難訓練の必要性や意義等を含めた指導が必要である。		・学校の避難訓練も、消防署や警察署を呼んで、充実させるとよい。
<幼・保・小・中連携> ・中学校や同じ中学校区の小学校との連携について ・近隣の幼稚園・保育園との連携について	◎四者評価において、教職員の肯定的な回答が約 18%上がった。中学校の統合に向けた情報の共有等が意識されていたと考える。 ●四者評価において、保護者の肯定的回答が 50%足らずで、昨年度から 13 ポイント減であった。連携の情報発信が不足していることが大きな要因と思われる。	・引き続き、中学校区の連携活動について情報発信していく。	・中学校が統合するので、取組として難しかったと思う。 ・学校からの情報発信が不足している。例えば、小中連携で行う「めぐろ子どもいじめ会議」を小学校の保護者にも公開してはどうか。
Ⅷ 情報の発信 ・学校の情報発信の充実について	【情報の発信】 ◎四者評価において、地域の肯定的回答の割合が 9.2 ポイント増加したのは、住区住民会議等で学校の様子を伝えるように努めた結果と考える。 ●四者評価において、保護者の肯定的回答が 70%である。学校は、保護者や地域による HP による周知の有効性を検証する必要がある。 【家庭・地域との連携】 ◎四者評価において、地域の肯定的な回答が 100%であった	・学校から情報発信する内容と方法について PTA の代表等、保護者の意見を参考に検討し、改善を図る。	・地域の情報などで、Home&school を使って配信しているものが、学校によって違う。区で統一してほしい。保護者発信のイベント情報がもっと簡単に流せるとよい。 ・本校 PTA 独自の連絡体制はある。

	のは、校舎さよならイベント等で、地域と緊密な連携を行った成果だと考える。 ●四者評価において、教職員が保護者・地域と連携できていないと回答している理由を校内で共有し、改善点を検討する必要がある。		
Ⅸ 教員の人材育成について ・日常の職務をととして専門性と協働性の育成、教育公務員の自覚について	◎四者評価において、肯定的な回答の割合が 100%であった。校内研究や 20 分研修等、勤務時間内で専門性と協働性の育成が図れており、全教職員が肯定的な回答となったと考える。 ●若手教員の育成について、組織的な取組を充実させる必要があると考える。	・主幹教諭、主任教諭が機能的に人材育成できるようなしくみを整える。年度当初に全体で若手育成研修計画の共通理解を図り、指導担当を確認する。	・引き続き行ってほしい。
X 教員の働き方改革について ・校務支援システムの活用、「チーム学校」を意識した業務分担等、組織的な業務の効率化・最適化について	◎四者評価において、肯定的な回答が 100%で、昨年度から 23.5 ポイント上がった。年度の前半は在校時間が多い教員が一部見られたが、後半は業務の分担がスムーズに行われ、定時退勤や休暇が取りやすい風土が醸成された結果と考える。	・教員が児童理解・学習指導・生活指導に取り組む時間を確保するための事務作業の分担や精選を引き続き行う。	・メンタルヘルスについては、未病の教職員の発見が大事だと考える。未病の人が、相談できる相手、窓口、組織、環境を活用してほしい。

XI 服務事故の防止について ・服務事故防止に向けた取組などについて	◎服務事故を起こさせない環境や人間関係づくりがあり、四者評価において、教職員の肯定的な回答が100%だと考える。	・教育公務員として、気を引き締めて業務を行うための声かけや、定期的に環境を点検することを継続する。	・引き続き大事にしてほしい。
---	---	--	-----------------------